福祉＋思いやりある心＝幸せ

中央林間小学校　五年一組　石黒杏

私は今回、東京でかいさいされたオリパラで初めてパラリンピックを家のテレビで観戦しました。

そのときに障がいにはいろいろな種類や重みがあることを知りました。と同時にこの夏に読んだ、事故によって目が見えなくなってしまった兄とその弟がブラインドマラソンに挑戦するという話「朔と新」では障がい者の感覚や気持ちを知ることができ、関心が深まりました。

私がよくつかう中央林間駅では白杖をもっている女性の方や、両足がまひしていて、松葉杖をついている男性をよく見かけます。中央林間駅の連絡通路が混雑している時間に白杖をつかって歩いているのですが、人が混みあっているのでゆっくり歩くことができず大変そうに歩いていました。

20 × 20

そのときに歩いていた場所には、点字ブロックがなかったため、白杖だけがたよりで不安で心細くこわかったと思います。

なのに私は、声をかけたり手伝うなど女性が安心して歩くことができるような行動をすることができませんでした。

松葉杖をついている男性の方がエスカレーターに乗るときに、松葉杖をつかって乗ろうとしているのですが、エスカレーターが動いていくごとに松葉杖をあげて、乗れたと思っても転びそうになったり、うまく乗ることができずにあせっていました。

そんな様子を見ていると「あせらずに、ゆっくりでいいですよ」「大丈夫ですか？何か私ができるようなことはありませんか」など、人が声をかけてくれるかもしれないと思って、自分で声をかけたり行動することができずにとても悔しい思いをしました。

中央林間駅のホームでは、目が見えない人と声をかけてあげたくなったのですが、他の

がホームから落ちないようにホームドアが取りつけられ、多目的トイレ内には手すりがあり、トイレの入り口ではどちらが女子トイレで男子トイレかがアナウンスで分かります。このように障がい者にとってとても便利な設備があるので、さらに人々の温かくやさしい思いやりある心があれば、健常者や障がい者のみんなにやさしいまちになります。

私は困っている人がいたら助けたり、声をかけるなどその人の役にたてることができるようになりたいです。

20 × 20